

御室の桜と龍安寺石庭

日 時 令和 5 年 4 月 14 日 (金)
集 合 阪急 嵐山駅 10 時 00 分
参加者 4 名 (梶木・小林・長谷川・菊池)
天 候 晴
行 程 阪急嵐山駅 —(徒歩)— 嵐電嵐山駅 =(嵐電乗車)⇒ 嵐電御室仁和寺駅
→ 御室仁和寺 (拝観・昼食) —(徒歩)— 龍安寺 (拝観・石庭等見学)
13:30 (解散)

阪急嵐山より徒歩で渡月橋を渡り嵐電嵐山へ。コロナによる行動規制が解かれたこともあって観光客は結構多く、賑わいは戻ってきている。外国人・修学旅行生などの団体も目に付く。

嵐電に乗車、古都の情緒を楽しみながら「帷子ノ辻」で北野線に乗り換え、「御室仁和寺」へ。



仁和寺

- ・仁和寺は真言宗御室派総本山の寺院。
本尊は阿弥陀如来で「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されている。
- ・創立は、第58代光孝天皇が着工し、仁和4年(888年)に宇多天皇が完成した。
- ・応仁の乱で伽藍を焼失したが、徳川家光より21万両が下付されて復興した。
現在、広大な境内には、国宝の金堂、御室桜、御殿、霊宝館 等がある。
- ・御室桜は、樹齢300年以上で遅咲きの桜で知られており、オオシマサトサクラ系の「御室有明」という品種の桜で、境内に約200本ある。また、地盤が粘土質で、土中の酸素や栄養分が少ない等の土壌の影響で、樹高は2~3mしかない。



仁和寺 五重塔 (仁和寺ホームページより)



今年の桜前線は、例年にも増して早く、遅咲きの御室桜もその例外ではなかった。花は散りはて、緑一色の背後に五重塔を見るばかりだった。

わたしゃおたふく 御室の桜 はなが低ても 人が好く

読み人知らず

はながなくては はなしにならぬ

みつのり

御所・庭園を見学、昼食の後、「きぬかけの路」を徒歩で龍安寺へ。

龍安寺

・龍安寺（りょうあんじ）は、臨済宗妙心寺派の寺院。大本山妙心寺の境外塔頭。山号は大雲山。本尊は釈迦如来。開基（創建者）は細川勝元、開山（初代住職）は義天玄承である。有名な石庭で知られる。「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されている。

もと徳大寺家の別荘を、宝徳2年（1450）に細川勝元が譲り受け、禅寺に改めたが、戦災で焼失し、明応8年（1499）細川政元が再興した。美しい鏡容池は藤原時代の由緒をとどめ、方丈前庭の枯山水庭園は俗に虎の子渡しと称されて有名である。



多くの人に愛されている龍安寺の石庭

龍安寺といったら石庭です。幅 25 メートル、奥行 10 メートルの広さの庭一面に、白砂が敷き詰められています。石庭を囲っている油土塀は、遠近法を使った目の錯覚で庭が広く見えるように設計されています。

石庭のなかには、東から 5、2、3、2、3 個、合計 15 個の石が置いてあります。石庭をどの角度から見ても必ず 1 つの石が見えず 14 個しか見ることが出来ない不思議な造りになっています。その配置もまた、龍安寺の石庭を有名たらしめている魅力のひとつです。この石の配置を 7+5+3 と解釈して「七五三の庭」と呼ばれたり、「虎の子渡し」という中国の逸話に基づいて「虎の子渡しの庭」と呼ばれることもあります。

ぜひいろいろな角度から見て、石の数を数えてみてください。石庭の奥深さを味わうことができます。

英国女王エリザベス 2 世も絶賛したといわれるこの石庭、十二分に時間をかけて鑑賞するも、凡人には、その深遠な禅の境地をうかがい知ることはできなかった。